



元気にな～れ

283

検診とワクチンで子宮頸がん予防

保健師 松谷美登理です。

若い世代で急増している子宮頸がん

子宮頸がんは、毎年1万5000人が発症し、約3,600人が亡くなっています。

➡ 日本では1日に約10人の女性が子宮頸がんによって大切な命を失っていることに…

子宮頸がんが一定期間に発生する患者数が全人口に占める割合は、**30代から40代がピーク!**
ここ20年くらいの間に20～24歳では**2倍**に、25～29歳では**3～4倍**に増加しています。

子宮頸がんの原因

子宮頸がん…子宮の入り口にできる「がん」のことです。

子宮頸がんのほとんどは、

ヒトパピローマ(HPV)というウイルスの感染が原因となって発症します。

- ・このウイルスは主に性交渉で感染。
- ・女性の70～80%の人が一生に一度は感染する可能性があるといわれています。
- ・感染してもほとんどの場合、自然に排除されますが、まれに持続的に感染し、5～10年以上をかけて一部が、がんとして発症することがあります。

子宮頸がんは予防可能ながんです

100種類あるヒトパピローマウイルスのうち子宮頸がんの60%を占め、
悪性度の高いHPV16型と18型の感染を防ぐワクチンの接種が可能に!



ワクチンは感染前(性交渉経験前)に接種することが大切で、
10代で接種することが効果的です。

- H23年2月より、上ノ国町でも高校1年生の希望者から順次接種を開始し、
今年度は中学1年生～高校1年生の希望者を対象に接種しています。

ただ、HPV16、18型以外の発がん性HPV感染は防ぐことはできないので、
20歳を過ぎたら2年に1回、子宮頸がん検診を受け、確実に予防しましょう。

全国的に子宮がん検診の受診率は低く、特に若い世代の受診率はさらに低い状況です。

上ノ国町では11月27日(日)に
子宮がん検診を行いますので、ぜひこの機会をご利用ください。
詳しくは、本誌12ページをご覧ください。